

### 【3 スマート農業技術を活用した「営農体系モデル」】

## ⑦茶

現状と課題	目指すべき姿	スマート農業機械										
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県の茶業は、法人を中心とした自販の大規模経営が進展しつつある一方、中小規模経営も多いなど、産地構造が二極化しており、それぞれの経営に応じた技術の活用や作業の効率化が重要。</li> <li>○ 大規模経営体及び規模拡大を志向する生産者等においては、茶園管理機械の無人化等による省力化・効率化が必要。</li> <li>○ 荒茶等の製造は、多くの経営体毎において個別の茶工場で行われているが、生産者の高齢化や茶価の低迷等の中、茶工場の共同化や茶園管理技術の平準化、共同作業など、生産から加工まで一貫した省力化モデルの確立が急務。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ロボット技術やセンシング技術等を活用し、大規模経営向け茶園管理の自動化を実現</li> <li>○ 茶工場を核とした集団化による共同茶生産におけるICTやAIの活用・実装を実現</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>導入機械名</th> <th>参考価格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 枝濡れセンサー付散水コントローラ</td> <td>29万円/台</td> </tr> <tr> <td>○ リモコン式自動草刈機</td> <td>100万円～330万円/台</td> </tr> <tr> <td>○ 無人サイクロン式吸引洗浄装置</td> <td>900万円/台</td> </tr> <tr> <td>○ 無人茶摘採機</td> <td>1,000万円/台</td> </tr> </tbody> </table>	導入機械名	参考価格	○ 枝濡れセンサー付散水コントローラ	29万円/台	○ リモコン式自動草刈機	100万円～330万円/台	○ 無人サイクロン式吸引洗浄装置	900万円/台	○ 無人茶摘採機	1,000万円/台
導入機械名	参考価格											
○ 枝濡れセンサー付散水コントローラ	29万円/台											
○ リモコン式自動草刈機	100万円～330万円/台											
○ 無人サイクロン式吸引洗浄装置	900万円/台											
○ 無人茶摘採機	1,000万円/台											



**枝濡れセンサー付き散水コントローラ**

- ・ 防霜スプリンクラーを利用し、クワシロカイガラムシの散水防除を自動で行うことにより、防除労働時間を削減
- ・ 有機栽培での導入により生葉品質が向上

**リモコン式自動草刈機**

- ・ リモコン式自動草刈機の導入活用により、作業強度を低減するとともに、10aあたり労働時間を約20%削減

**無人サイクロン式吸引洗浄装置**

- ・ 無人サイクロン式吸引洗浄装置の導入活用により、農薬散布回数を削減するとともに、10aあたり落葉等回収作業を約90%省力化
- ・ 有機栽培での導入で二番茶生葉収量が既存有機栽培時より15%向上

**無人茶摘採機**

- ・ 無人茶摘採機の導入活用により、経営規模10haでは多くの労力を要する茶の収穫作業で労働時間を約9%削減

労働時間の削減 ↓ 検証中

労働時間の削減 ↓ 20%

二番茶生葉収量の向上 ↑ 15%

労働時間の削減 ↓ 9%

※農業新技術カタログより

※有機JAS認証農家収量より推測

※県茶業支場データと県農業経営管理指針より試算